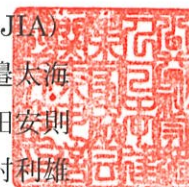


御料車庫（※）保存利活用に関する要望書

2023年1月吉日

品川区長 森澤恭子 様

公益社団法人 日本建築家協会（JIA）
関東甲信越支部 支部長 渡邊太海
同 保存問題委員会 委員長 太田安則
同 城南地域会 代表 木村利雄



御料車庫保存利活用に関する要望書

拝啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

品川区におかれましては、日頃より建築文化の継承・発展に理解を示されていることに、深く敬意を表します。又、当協会の活動に格別のご理解を賜り、厚く感謝申し上げます。

さて、現在進められている JR 大井町駅周辺、広町地区の開発に伴い、品川区新庁舎整備基本計画（素案）が公開されました。御料車庫（※）は現庁舎と新庁舎予定地に挟まれる形で存在していますが、整備予定道路が御料車庫北側部分を横断する計画となっており、当該建築物の保存利活用についてその推移を注視しているところです。

※：この呼称は日本国有鉄道大井工場著『大井工場90年史』昭和38年編で使用されています。また、鉄道博物館企画展「御料車～知らされる美術品～」2010年のカタログ011ページ「御料車のあゆみ」に「大井工場（当時は大井工機部）では御料車庫が」の記述もあります。

開発の対象となる広町地区には、大正4年以来日本国有鉄道大井工場が置かれ、日本の鉄道発展の重要な役割を担って来たことは、その後の大井町の開発と切っても切れない関係にあります。その中で、御料車庫は大井工場建設初期から存在し、関東大震災をも逃れて既に百年を超えた煉瓦造建築です。「そして壁上部には蛇腹を、両端にはニッチをとり、御料車庫として苦心を示している」（日本国有鉄道大井工場著『大井工場90年史』昭和38年編より）と表現される文化財としても大変貴重なものといえます。

かつて広町の北隣には明治8年創業の品川白煉瓦株式会社（現 品川リフラクトリーズ株式会社）があり、製造した煉瓦は東京駅舎や銀座のガス灯、富岡製糸場、横浜瓦斯局など多くの建造物に供給され日本の近代化に寄与した歴史もあります。もちろん品川区内にも多くの煉瓦造建築がありましたが、大部分は関東大震災や戦後の経済活動などで破損、喪失し

てしまいました。残存したにもかかわらず品川燈台や品川硝子製造所、日本酸素記念館などは他県に移築されてしまいました。現在、品川区内で見ることのできる煉瓦造建築はこの御料車庫と、同じく大井工場敷地北東端の旧変電所、南品川の日本ペイント明治記念館、北品川の法禅寺などわずかとなりました。これらは、時代の変遷を生き延びた生き証人でもあります。

JR 大井町駅前広場に煉瓦柱を持つ案内版がありますが、普段は人目につかない頂部に品川白煉瓦製造の証である「SHINAGAWA」が誇るように刻まれています。

煉瓦造建築物の保存利活用の例は数多く、旧小樽倉庫、横浜の赤レンガ倉庫、門司港の煉瓦建築群、弘前れんが倉庫美術館など、各地でまちづくりのモチーフとなり観光名所となっています。煉瓦には素材が持つ独特の“ぬくもり”と歴史的な存在感があるからだと思います。最近では御料車庫と同時期の建設である広島陸軍被服支廠の保存を広島県が決定しました。

広町地区が持つ土地の記憶として、日本の近代化に寄与した鉄道と煉瓦の象徴として、御料車庫は品川区が後世に引き渡す貴重な歴史・文化資産そのものであり、その保存利活用は品川区のまちづくりにとっても重要な要素となるはずです。

前記の日本ペイント明治記念館には、品川区教育委員会から保存要請が出されていることを付け加えます。

御料車庫の価値について十分な評価がなされ、保存利活用を実現すべくご裁量くださるようお願いいたします。

尚、公益社団法人 日本建築家協会 関東甲信越支部は上記実現のため微力ながらできる限りの協力をさせていただく所存であることを申し添えます。

敬具